

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.846
2019.9.8

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

神田よしゆき とば めぐみ
とりうみ敏行 金子 あきよ
松村 としお たけこし 連
久保 みき



これでいいのか？

障害者雇用

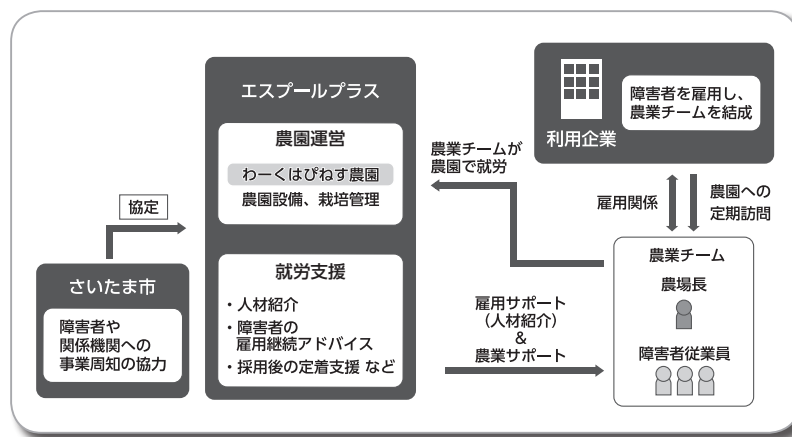
さいたま市ソーシャルファームを視察

「わーくはびねす農園」を視察する(左2人目から)金子、たけこし、とばの各市議

8月27日、今年6月から事業がはじまったさいたま市ソーシャルファームの「わーくはびねす農園(岩槻区鹿室)」を党市議団が視察しました。金子あきよ、たけこし連、とばめぐみの各市議が参加しました。

農園には35棟のビニールハウスが設置され、現在23棟で17社の企業に雇用された障害者が働き、ビニールハウス内の整地、水やりなどの作業で野菜の水耕栽培をしています。企業は1棟30万円(月)でそれぞれのハウスを運営する契約を結び、障害者3人といっしょに働く農場長1人を雇用するしくみです。障害者支援に関するサポートは運営会

さいたま市ソーシャルファームのしくみ



社エスプールの社員である農園管理者などがおこないます。農場長には福祉や農業の経験を問わないため、シルバー人材や企業の退職者が雇用されているとのこと。

視察した金子市議は「企業で働きたいという障害者の願いをきちんと実現できるよう職

9月議会 中学校の全特別教室にエアコンを設置！

9月議会に市長が出した議案のうち、おもなものを紹介します。

中学校の全特別教室にエアコンを設置するための契約議案が、照明のLED化とセットで出されました。契約金額は約61億4000万円になります。これまで党市議団としても学校の特別教室や、体育館へのエアコン設置を求めてきたものが、いよいよ実現します。

また、来年度からはじまる会計年度任用職員制度に関する条例の整備や、印鑑登録に旧姓が使えるようにする条例改正、浦和駒場体育館の中規模修繕工事等の諸議案が出ています。

度は選挙が続いていますが、いずれも低投票率でした。選挙管理委員会の投票率向上のための積極的なとりくみが期待されます。

2018年度決算も黒字 基金は736億円に

9月議会は前年度決算の審査もおこないます。2018年度の市の財政は全体で約26億2000万円の黒字でした。さいたま市誕生以来、黒字が続いています。基金はさらに増え、2018年度基金は約736億円(前年度比37億円増)になりました。

党市議団は、水道会計の黒字の一部を水道料金の値下げに充てるよう、求めてきました。2018年度水道会計は約53億円の黒字でした。前年度より約5億円減りましたが、引き続き高い水準です。

市民の暮らしを支えるために税金が使われたのかしっかりと審査します。

参議院議員補欠選挙に 3億8000万円

参議院議員補欠選挙が、10月10日告示・27日投票でおこなわれます。選挙の予算として、約3億8000万円が市長によって専決処分されました。今年

場環境が整えられているか、生活や医療面の支援が働く障害者にとって不利益のないようにおこなわれているのか、不安な点が多い。

市がこの事業に対して果たすべき責任を明確にさせ、しっかり責任を果たさせていきたい」と話しました。

子どもの均等割やめよ 市民に寄りそう行政に



懇談に同席する
(左から)とりうみ、
とばの両市議

8月23日、さいたま市社会保障推進協議会が市と懇談しました。懇談には、とりうみ敏行、とばめぐみの両市議が同席しました。

国民健康保険課との懇談では、国保税の子どもの均等割をただちに減免するよう求めたことに対して、市は「広く保険料を負担してもらう必要がある。政令市長会で国費の投入を求める意見を出している」と話し、財源を確保できないなかで均等割の廃止はできないと回答しました。同会は、一般会計からの繰入金の継続と増額で、これ以上保険料負担を重くしないよう求めました。

介護保険課とは介護認定の軽度化や特養ホームの空きベッドの問題について、債権回収課とは市税事務所の新体制や滞納相談者の助言者同席などについて懇談をおこないました。

懇談を終えてとりうみ市議は「国保は国の制度であり、財源の半分を国が負担するといっただけでスタートした。均等割は収入のない子どもまでもが対象になっており、子育て世代の負担が重い。市が独自に判断し、市の負担で法定外繰入をすれば減免できる。同時に、国への財源投入を強く求めたい」と話しました。



全体会で松崎氏の講演を聞く参加者

当事者がつながって 安心を広げよう

不登校問題全国のつどい

8月31日、9月1日の2日間、長崎県佐世保市において「登校拒否・不登校問題第24回全国のつどい in 長崎」が開催され、党市議団からとばめぐみ市議が参加しました。

このつどいは1996年からスタートし、不登校の子どもの親たち、教職員、研究者等の交流や学習を目的に毎年開催されています。精神科医をはじめ、長崎県内各地の社会福祉協議会や児童相談所職員、メディア関係者が実行委員をつとめ、今年も約400人が参加しました。

はじめに、松崎運之助氏が「私という宝物とともに生きるまなざし」と題して記念講演をおこないました。1945年に満州で生まれ、長崎で育ち、夜間中学教師として生徒に寄り

添ってきた松崎氏は、子どものときに学校に行けず高齢になってから夜間中学に入学した人たちと不登校の子どもたちとの学びあいの様子を語り、「地位や名誉のためでなく、人間としての勉強をしていこう。できないとき、困ったときに助けを求める勇気、SOSを出せる能力こそ育ててほしい」と強調しました。

不登校・進路・自立・居場所・家庭の役割・引きこもり・非行・医療など、13のテーマの分科会が開かれ、それぞれのテーマを深めました。

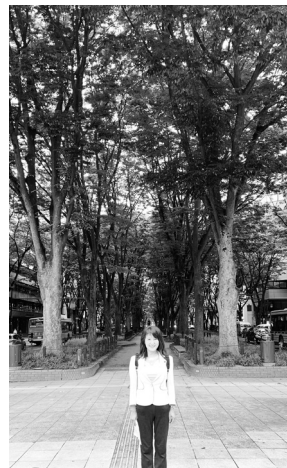
とば市議は「当事者やその家族、専門家が本音で語りあうことで、安心とつながりを感じられる。本市でも不登校で悩んでいる当事者とその家族がいる。今後も議会で不登校問題にとりくんでいきたい」と語りました。

久保みきが行く！ 仙台市・定禅寺通りのケヤキ並木を視察

7月22日、久保みき市議が仙台市の定禅寺通りのケヤキ並木を視察しました。久保市議のレポートです。

さいたま市の埼大通りのケヤキ並木が年々弱ってきています。弱った木は伐採され、さいたま市の管理している北浦和駅前から羽根倉橋までのケヤキ本数は、当初570本だったのが、いまでは486本になってしまいました。このままでは、日本一を誇るケヤキ並木もなくなってしまうのではないかと問題意識から、ケヤキの維持管理について先進的などりくみをしている仙台市のケヤキ並木を視察し、話をうかがってきました。

仙台市では、ケヤキ並木保全計画に基づき、ケヤキの樹高は15～20mと定め、4～5年サイクルで全体剪定をおこなっています。毎年の樹木点検では、支障枝や枯れ枝の剪定をおこなっています。ケヤキの根はケヤキの大きさ・枝の張り具合と比例することなので、埼大通りのケヤキも大きさを定め、ていねいに管理することで元気に生きていけることを学びました。今後、議会でも取り上げていきます。



仙台市を視察

あなたの身近な議員です



市議(北区)

神田よしゆき



市議(浦和区)

とりうみ敏行



市議(緑区)

松村としお



市議(桜区)

久保みき



市議(見沼区)

とばめぐみ



市議(南区)

金子あきよ



市議(中央区)

たけこし連